



こめづくり もりづくり ひとつくり

山村塾通信



「小農」

3月5日～6日、四季菜館にて「小農学会」の現地検討会が開催され、笠原地区の見学や農民作家の山下惣一さん（小農学会共同代表）による講演会を経て小農について意見交換が行われました。

山下さんの講演では、1960年代と現在の畜産農家を比較されたことが印象的でした。1960年代は、畜産業を営む農家を平均するとニワトリ12羽、ブタ2.4頭、乳牛2頭の規模だったそうです。庭先にニワトリがいて、小屋には牛や豚が飼われていて、野菜くずや稲わらが飼料となり、鶏糞や牛糞を畑の肥やしに使っていた、こういう情景を思い浮かべることができます。一方、現在はニワトリ6,320羽、ブタ1,810頭、乳牛75頭となるそうで、農家というより企業経営として畜産業を営むことが主流となってきたことを示しています。飼料の多くはアメリカなど海外から輸入され、排泄物は廃棄物として取り扱われるようになりました。

日本には小さな規模の農家がたくさんあります。農作物の生産量は少ないかもしれませんが、農道の草刈りや水路の維持管理を行い、山の手入れや田んぼの手入れに汗を流します。小さな農は、自然環境や生き物との調和、家族や地域を大切にすることにつながり、地域での持続的で自給的な暮らしを育みます。山村塾の取り組みが目指すのは、一人一人が小農に関わる場づくりなのかもしれません。大人も子供もお年寄りも、都市の人も農山村の人も、少しずつ農と農村にかかわる暮らしを行うことで、人にも地球にも優しい暮らしがつくられるのではないかと、小農学会の皆さんとの二日間を通じて感じました。皆さんも「小農」の一員として一緒に頑張りましょう！（小森 耕太）



棚田の田植え

※ 2018年12月の国連総会にて「小農と農村で働く人びとの権利に関する国連宣言」が可決されました。小農とは文字通り小さな農業のことで、家族による小規模農業や自給的農業のことを指します。加えて、土地を所有せずに農地を借りて作物を作ることやプランテーション農場などで働く労働者も含まれます。宣言では、小農と農村で働く人々が貧困な環境を強いられることや様々な権利が奪われることがない社会を目指すことがうたわれています。

◆小農学会 <http://www.mandanoen.com/sagri.html>

◆国連 小農と農村で働く人びとの権利に関する宣言（案）PDF <http://qq3q.biz/pzHV>

稲作コースより

2018年最後の行事は、今回から稲作コースの行事となった「しめ縄づくり」。お米を収穫した後の稲わらも、四季菜館では様々な場面で使われています。(納豆づくりでも大活躍です。)今回挑戦したのは、博多棒しめ縄という大きくて立派なしめ飾りづくり。あつという間にシュルシュルと縄をなう椿原さんの手にびっくりしつつ、こうかな?どうかな?と悩みつつ…みなさんなんとか無事にしめ飾りを完成させることができました!

新年最初の行事「左義長(さぎっちょ)」では、棚田にたてた竹櫓にしめ飾りを取りつけて燃やし、七草がゆや玄米餅入りのぜんざいをいただきながら、今年1年の無病息災を願いました。こうしてみなさんと一緒に田んぼの恵みを味わいながら、伝統の技術や行事に触れる機会があることは、とても楽しくてありがたいものだなあと感じます。

さて、2019年の米作りももうすぐスタートです!今年も田んぼでたくさん働き、みんなでおいしいご飯を囲みましょう!(原愛子)

◆12月9日(日)「もちつき・しめ縄づくり」

参加者:会員27名、一般10名、スタッフ9名、計46名

場所:四季菜館

◆1月13日(日)「左義長(さぎっちょ)」

参加者:会員71名、一般20名、スタッフ9名、計100名

場所:四季菜館、棚田

難しい!おもしろい!
しめ縄づくり



100名大集合!
左義長でした

農家の声

仙吾さんのご逝去を悼んで

「仙吾さんおっちゃん」と気軽に呼べ、何度も相談できて気安く教えていただいた、宮園理事長のお父様が亡くなりました。

山村塾の先輩組織とも言える「黒木有機農業の会」が、グリーンコープとの産直生産者団体として発足し30余年経ちます。現在は子どもたちにバトンタッチして、後継者が頑張ってくれていますが、その産直の活動の延長線上に年末の「しめ縄」の生産依頼があり、当時は仙吾さんたち先輩方3組の夫婦(合計年齢400歳ほどかな)で生産に励んでいただき、若手の福夫君は福岡方面への配送係でした。トラックに枠を立て、満杯積みで配達してもらったことが記憶にあります。

仙吾さんは手先が器用でしめ縄の出来栄も素晴らしく、立派なものでした。その当時の合言葉は、「おっちゃんどんが、できんごつなつたら、おっどんがするけん」…八女弁、わかりますよね。30年が経ち、しめ縄作りは見事我々2代目(平均年齢70歳弱)へバトンタッチされ、出荷量(注文数)こそ減ったものの、種類と出荷先は多方面へと増えています。

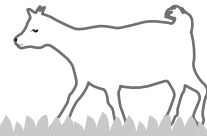
田舎の生業的な仕事を一つ一つ大事に器用になされ、更には物事の判断力も卓越した才能の持ち主で、お話を聞くだけでもほっとする時間を与えていただきました。宮園家はもちろんのこと、私たちにとっても農林業への向き合い方、地域との関わり方等々、故人の遺志を忘れることなく頑張らねばと痛感いたします。88歳の生涯、立派な人生だったと思います。平均寿命からすれば、長寿の域に達するかと思います。残された宮園家の皆さま共々、私たちも気を引き締めやるしかありませんよね。皆様仲良く頑張りましょう!

最後に、仙吾さんおっちゃんのご冥福を心よりお祈り申し上げます。合掌。



しめ縄の出来栄が仙吾さんに近づきたい百姓
椿原 寿之

山林コースより



今年は春の訪れが早く、いつもは寒い2月の山林コースも、今回はほかほか陽気の青空の元での活動となりました。気持ちよかったですね！

山の仕事は“収穫”までに長い時間がかかるもので、しいたけができるのは菌を打ってから1年半後、今回植えたスギの木が材として使えるようになるのは40年以上先のことです。田んぼの稲に比べると長く待たなければいけません、今日の前にあるしいたけや木材は、ずっと前に作業をしてくれた人たちのおかげでここにあるのだと思うと、とてもありがたい気持ちになります。そして今の私たちの作業も、未来に繋がっていきます。山の仕事って、そんなロマンがありますよね。

山林コースの活動は夏までしばらくお休みですが、2019年度も山でたくさん汗を流しましょう！（原 愛子）

◆2月3日（日）「しいたけ菌うち」

参加者：会員26名、一般1名、スタッフ7名、計34名

場所：えがおの森

◆2月24日（日）「植林」

参加者：会員14名、一般6名、スタッフ7名、計27名

場所：上松尾、えがおの森

※3月10日開催予定だった炭焼きは、宮園家のご不幸により開催を中止しました。



植林した森に
みんなで記念の
看板を立てました

平成31年に入り3ヶ月が過ぎようとしています。本当にいろいろなことがあり、戸惑いながらの毎日です。先日の山林コース行事「炭焼き」中止の際は、申し込み頂いた皆様にはご迷惑おかけし申し訳ありませんでした。

2月は山林コースの活動月でした。まずは、2月3日の「しいたけ菌打ち」。参加者約30人（子供11人含む）。菌打ちは地道な作業ですが（原木に空けられた穴にかなづちを使って種こまを打つ）作業量の分かりやすい達成感のある作業です。参加者の話の中で、子供の成長を感じたり、いつもと違った時間の中での発見の場になっている事、そんな環境の提供が出来ているんだなあ～と感じた日でした。

次に24日の植林。参加者20名超。田んぼの上のタブの木や竹を切った後に、スギを中心にヤマザクラやイチョウなどを含め約200本の木を植林しました。竹の根が張っていて穴掘りが大変なところもありましたが、午前中無事に終了しました。午後は、椎茸の菌打ちをして頂きました。天気にも恵まれた春の一日でした。行事の際は、食事担当で文ちゃん（小森婦人）に手伝って貰いながら奮闘しています。本当に感謝です。

人は支え合って生きていくと云われます。私の場合、支えて貰っている方が多い様です。今後も、いろんな場面で支えて貰う事が多い事だと思います。宜しくお願いします。

*

今月3月7日、義父の宮園仙吾が88年11ヶ月の人生を全うしました。

戦争で3歳の頃に父親を亡くし、終戦後の大変な時代を生きてきたということは、便利過ぎる今の時代しか知らない私には到底想像できないものだろうと思います。だからこそ、人のお世話をしたりお寺のお世話役を何年も勤めたりと、人との関わりを大切にしていたのかと、今になると考えます。相談できる兄弟もなく、自ら決断や判断しなくてはならない事も一人で乗り切ってきたのだろうと…。私には到底真似できる物ではありません。人に頼まれると快く色んな事を引き受け、手も器用で1斗缶で塵取りを作ったり農作業の道具の修理をしたり。多方面でサポートしてもらいました。通夜、葬儀の際には本当に沢山の方にお別れをして頂きました。人との関わりの中で生きた証を実感しました。

今まで有難うございました。今は、色んな事に追われて日々をこなしている状態ですが、日を追うごとに実感することでしょう。



山林コース
宮園 佐津美

山村塾ニュース

◆「自伐林家育成研修」1期生修了しました

福岡県森林環境税の取り組みの新事業として、平成30年度より「自伐林家育成研修」が始まりました。週末や仕事の合間などを活用して地域の森林を守る「自伐林家」を育成し、荒廃した森林の再生を担う人材を増やすことを目標とした取り組みです。山村塾ではこの研修の企画・運営を担当し、安全な林業技術の習得を目指してチェーンソー・刈払機の取り扱いや伐木造材作業など、計22日間の研修を開催しました。

今回1期生となる7名の受講生（男性5名、女性2名、30代5名と40代1名、60代1名）は、ほとんどが林業やチェーンソーの初心者でした。最初はぎこちなかったチェーンソー作業、雲をつかむようなチェーンの目立てでしたが、徐々にレベルアップし、目立てや伐木のフォームが様になっていきました。研修は寝食を共にした少人数制で行われたこともあり、受講生の皆さんはとても仲良く、互いの目標やライフプランを語り合いながら、声をかけあって研修を盛り上げていただきました。こうして福岡県内に森林を守る仲間が増えつつあることをうれしく思います。

3月で研修は終わりましたが、これで卒業ではなく、同期生の仲間と連携しながらさらに腕を磨き、今後続く方々の手本となるよう頑張っていたきたいと思います。（小森耕太）



講師と受講生のみなさん 伐木研修にて

◆参考：【飛び出せ！サークル“ふくおか研”】
小さな林業で森林を守る！～自伐林家育成研修～
<http://webtv.pref.fukuoka.lg.jp/ja/movies/detail/3691>

その他の活動報告

～12月～

- 12/23(日) グリーンウッドワーク研修
参加者9名(会員2、一般2、スタッフ5)
場所：えがおの森

～1月～

- 1/12(土) 左義長準備
参加者29名(会員14、一般7、スタッフ8)
場所：四季菜館、棚田

自伐林家育成研修を終えて
受講生：安元 陽美



目立ての特訓！

昨年の8月から3月にわたり、「自伐林家育成研修」を通し、山村塾のみなさんには大変お世話になりました。

私は福岡市西区在住です。住まいの近くには九州大学が移転し、たくさんの大学生で賑わっています。職場は同じく西区の北崎地区の農園に勤めています。同じ西区でも、若者で賑わい急ピッチで沢山の建築物が立ち並ぶ活気にあふれた九大界隈。もう一方は糸島の通過点、高齢化過疎地区により休耕地があふれ里山が荒れていく一方の北崎地域。どんどん荒れていく山の姿をみて、どうかしなきゃ！微力ながら何かできることはないだろうか。と思っていた時に、この研修を知り受講することとなりました。宮園さんや小森さん、素晴らしい指導者の方々のもと、林業の危険性や安全の定義、様々なことを教えていただきました。

この研修で私は毎月笠原へ通うこととなり、季節の移ろう姿に感動し、時に、あまりにも綺麗な景色に涙してしまいました。私の実家は福岡県双葉郡です。東日本大震災以降、ふるさとの景色は様変わりしてしまいました。ふるさとの景色は変わってしまいましたが、私の心の中には、美しいふるさとの景色が変わらずに残っています。

ふるさとはいいですね。笠原も水害という悲しい出来事がありましたが、笠原にはまだまだたくさんの美しい景色があります。笠原は日本の原風景です。この日本の素晴らしい原風景を次の世代、そしてまた次の世代へと引き継いでいけるように、自伐林家育成研修で学んだことを軸に、林業そして農業を通して日本の農林業の素晴らしさをたくさんの方に伝えていきたいと思います。山村塾のみなさん、これからもよろしくお祈りします。

～2月～

- 2/16(土)～17(日) 里山ミニワーク「農産物加工(納豆・みそ)」
参加者32名(会員14、一般7、スタッフ11)
場所：四季菜館

～3月～

- 3/16(土)～17(日) 里山ミニワーク「宮永茶屋の森づくり」
参加者17名(会員2、一般9、スタッフ6)
場所：宮永茶屋(宮若市)

◆出張！宮永茶屋で広葉樹の森づくり

山村塾メンバー毛利さんの実家である古民家「宮永茶屋」（宮若市）にて、1泊2日の植林ワークを行いました。

宮永茶屋では、これまでも里山80日ボランティアや九州NICEのみなさんと一緒に年に2回ほど、竹林整備など古民家周辺の森の手入れを行ってきました。今回は古民家の向かいのヒノキ林を伐り、そのあとに広葉樹を植えてみんなが親しめる森をつくりたい…という計画です。この冬に伐採されたヒノキ林跡で、落ちている枝葉を片付け、シカ避けのネットを張ったあと、約250本のヤマザクラやヤマボウシ、ウメ、モモ、カエデなど花や紅葉が楽しめる広葉樹を植えました。この山からの見晴らしがまた素晴らしく、これまで整備してきた竹林が一望できたり、北九州の山々も見えるほど。一面に植えたヤ



眺めもよくて
気持ちいい場所
です！

マザクラの花が咲くようになったら、きっと素敵な場所になるだろうなあ！と思いを馳せました。

今後も宮永茶屋では定期的に森づくりの活動を行う予定です。春にはタケノコ掘りや梅ちぎりなども予定されています。宮永茶屋とそのまわりの森が、たくさんの人に関わり親しんでもらえる場所になるよう…ぜひこちらでの活動にも参加してみてくださいね！（原愛子）



山村塾×九州NICEのみなさん。おつかれさまでした！

～宮永茶屋（宮若市） 今後の予定～

●たけのこほり、バーベキュー

日時：4月29日（月・祝）10：00～16：00

会費：1,500円、小学生以下500円

【申込先】こもればの家（毛利宗孝）

電話 0942-53-5511 メール mhouri@komorebinoie.jp

こんにちは監事です！ 覚知 康博

私が山村塾に入会したのは、ほんの偶然の出会いからでした。当時「障がい者への森林療法」に取り組むたくて、その療法の第一人者の東京農大の上原巖教授の本を読んだりしていました。ぜひ取り入れたかったのですが、東京まで障がいを持つなかま（利用者）が体験に行くのはちょっと遠いなあと考えていました。



そんな時、ある会合でたまたま旧知の毛利宗孝さん（現副理事長）と隣になり、この話をしたところ、山村塾の取り組みを紹介されました。里山保全活動のボランティア活動がある、しかも県南の黒木町で。

2009年に入会し、初めて参加した企画は、80日ボランティアの国内外の青年たちとの山の整備でした。日本の里山は、植林よりも手入れをしないことの荒廃が激しいことは知識として知っていましたが、その活動をはるばるやってきたアジアやヨーロッパの青年たちが真摯に行っていることに衝撃を受けました。日本人として恥ずかしい気持ちにもなりました。

山村塾の監事でもあり、柳川市の障がい者福祉施設「たからばこ」の施設長である覚知さんに、山村塾への思いを寄せていただきました



月に2回、笠原の山で
たからばこのなかまたちと一緒に活動しています。

その後2010年から、障がいを持つなかまと山村塾との共同の取り組みを行ったり、山村塾の監事になったりして、ご縁が深まって行っているかなと感じます。

監事として思うのは、山村塾は黒木に移住した若者が専従として事務局をささえている点が大変な強みだと思います。財政上の課題は付きまといますが、このやり方が是非全国に広がったらいいなと思います。これからも監事としても一会員としても参加していきたいです。

今後の予定

日程	行事名
4/14 (日)	全体行事「顔見せ会」
5/3 (金)～4 (土)	里山ミニワーク「お茶つみ」
5/12 (日)	稲作コース「種まき」
5/25 (土)～26 (日)	里山ミニワーク「棚田の草刈り」
6/1 (土)	第6回通常総会
6/16 (日)	稲作コース「田植え」

【イベント参加についての注意！】

※すべてのイベントは**事前申込みが必要**です！
原則として**開催4日前**までに必ずお申込みください。
食事等の準備のため、ご協力をお願いします。

【お申込み】

どのイベントも、どなたでも参加頂けます（一部年齢制限あり）。事前申し込み制です。事務局までメール、電話、FAXでお申込みください。

～4/14 (日) 全体行事「顔見せ会」～

2019年度最初の行事は「顔見せ会」です！
ケヤキ林やえがの森の周りで山菜を探したり、山の幸ごはんを囲んで、今年もよろしく！と交流会を行います。初めての方も、お久しぶりの方もぜひどうぞ♪

【日時】4月14日(日) 9:30 集合～15:30 解散

【集合】笠原東交流センター「えがの森」

【参加費】一般1,000円、活動コース会員無料

【申込×切】4月10日(水)まで【定員】50名

※詳細はホームページをご覧ください。

お申込み・お問合せは山村塾事務局までメール・FAX・電話にてご連絡ください。

事務局より



特例認定 NPO 法人山村塾 会員募集！

●会員の種類は、総会での議決権を持つ正会員と議決権を持たない賛助会員の2種類です（どちらも個人5,000円、団体10,000円）。

●いっしょに田んぼや山で働く、活動コース（稲作・山林、稲作、山林、古里）の加入をお待ちしております！
ご寄付のお願い

山村塾の活動は、皆様からのご寄付で支えられています。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

＜ヤマヤマ基金＞農山村の環境を守る活動全般に役立てられます。

＜平成29年豪雨支援＞山村塾では寄付を活用し、朝倉市黒川地区の復興を支援します。

■郵便振込口座から

加入者名：特定非営利活動法人山村塾

口座番号：01790-3-169398

※通信欄にどちらのへのご寄付かご記入下さい。↗

■銀行から

銀行名：ゆうちょ銀行 店名：一七九（店番：179）

口座：当座 0169398

※銀行からお振込みされた方は、お名前とご住所またはメールアドレス、寄付先をお知らせ下さい。

■農産物を買う：会員の方が、椿原家と宮園家の農産物・林産物を購入されると、その一割が**ヤマヤマ基金**へ入ります。

◎**年会費納入** 以下の方々から年会費を納入いただきました。ありがとうございます。(2/28入金まで。敬称略)

■**正会員**：栗脇康秀（稲作）、森永哲夫（稲作山林）、特非）こもれびの家理事長毛利赫子（稲作、山林）、高木雄三（稲作）、八田智弘（稲作）、平島道明（稲作）、内田和実（山林）、社会福祉法人たからばこ（山林）、田仲真理子（山林）、樋口淳一（山林）、古賀信夫（古里）、平島和也（古里）、一般社団法人地域企業連合会九州連携機構会長小早川明德、澤田俊夫、毛利宗孝

■**賛助会員**：村上憲司（古里）、桁山忠典、奈良秀樹（稲作山林）、宮副賢治（稲作山林）、市川弘典（稲作）、江里文子（稲作）、小野孝之（稲作）、榊原雅憲（稲作）、中村竜三（稲作）、兵頭靖博（稲作）、小鉢高寛（稲作）、佐藤剛史（山林）、久保健（古里）、迫盛寛（古里）、松尾綾（古里）、赤羽敬治、株式会社乗富鉄工所、西濱亜由香、今西勇氣、柴戸慶子、中島幸代、檜室美恵子、宮野和子、望田敬子、森順子、背川歌子

◎**寄付者** 以下の方々から頂きました。この場を借りてお礼申し上げます。(2/28入金まで。敬称略)

■**ヤマヤマ基金**：毛利宗孝、豊国寛隆、小野孝之、平島和也、背川歌子、松尾公孝、山本史朗、有限会社朝日屋酒店 代表取締役高橋康太郎、小森由美子、小森琢馬、久保川春菜、たからばこ職員会、松本和広、川原孝行、安達保、桁山稔博、石崎辰之助、石崎九十九、小川誠二郎、大橋幸太郎、宮園秀喜、中島幸代、樋口淳一、小川義光、迫盛寛、柴戸慶子、井上真由美、河野千枝子、小手川絢子、田仲真理子、秋永優子、宮園福夫、森永哲夫、迫立隆男、西濱亜由香、赤羽敬治、平島道明、宮野和子、森順子、久保健、江里朝範、井口登興志、檜室美恵子、蒲池幸代、毛利宗一、吉元俊憲、榊原雅憲、美多孝志、旭座人形芝居保存会、奈良秀樹

■企業・団体からの寄付：

株式会社ファンケル様から「HAPPY エコルーレット」を通じてご寄付をいただきました。パッチワークの森づくり事業に活用させていただきます。

▶第1回 62,500円 (2018/11/26)

▶第2回 62,500円 (2019/3/4)

※「HAPPY エコルーレット」

<https://blog.fancl.co.jp/happy/index.html>



山村塾 特例認定 NPO 法人 山村塾

〒834-1222

福岡県八女市黒木町笠原 9836-1

TEL・FAX 0943-42-4300

Email : info@sansonjuku.com HP <http://sansonjuku.com>

FB <https://www.facebook.com/sansonjuku>

理事長：宮園 福夫 事務局長：小森 耕太